



## 経済成長による中国の生活の変化

—さまざまな資料とICTを利活用した  
「主体的・対話的で深い学び」の授業実践—

佐賀県立佐賀西高等学校 高橋 武 (たかはし・たけし)

### —使用教材—

『高等学校 新地理総合』

『新詳高等地図』

『新詳地理資料 COMPLETE 2022』



### 1 はじめに

新学習指導要領における新科目「地理総合」がスタートした。本校においても1年次に「地理総合」や「歴史総合」が必修科目として開講されている。試行錯誤の連続ではあるが、『高等学校 新地理総合』（以下、教科書）とリニューアルした『新詳高等地図』（以下、地図帳）、『新詳地理資料 COMPLETE 2022』（以下、資料集）を使用し、授業が展開されている。また、筆者が勤務する佐賀県においては、平成25年度までにはすべての県立学校の各学級に電子黒板が設置され、平成26年度入学生からは1人1台ノートPCを所持している。

### 2 新学習指導要領

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編』の「地理総合」における指導上の配慮事項には次のような記載がある。

- イ （一部省略）地図や統計などの地理情報の収集・分析には、地理情報システムや情報通信ネットワークなどの活用を工夫すること。
- ウ 地図の読図や作図などを主とした作業的で具体的な体験を伴う学習を取り入れるとともに、各項目を関連付けて地理的スキルが身に付くよう工夫すること。また、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実させること。

同解説では、①情報を収集する技能、②情報を読み取る技能、③情報をまとめる技能を身に付けることの重要性を述べているとともに、「繰り返し指導する機会を設けることが大切である」ともある。各単元において、作業的な活動ができるような授業の工夫も必要である。また、「主体的・対話的で深い学び」を通じて、①知識及び技能の習得、②思考力・判断力・表現力等の育成、③学びに向かう力、人間性等の涵養を目指すことも、新課程の

目玉である。学校によっては「地理は自然地理や多くの図表の読み取りがあって苦手だ」という地理が専門ではない先生方が担当されることもある。そんな先生方には、教科書や地図帳、さらには資料集に豊富な資料が掲載されており、あとは、生徒が作業的に「主体的・対話的で深い学び」を実行できるように教師がファシリテート（交通整理）するだけとお伝えしたい。この授業案を地域や生徒の実態に応じてアレンジし、生徒主役の楽しい「地理総合」の授業を、生徒とともに創り上げてほしい。

### 3 経済成長と生活の変化

本稿では、「経済成長による中国の生活・文化」（教科書 p.134～135）（**図1**）の授業案を提示したい。前時の「東アジアの経済成長とその歩み」（教科書 p.132～133）を踏まえて、本時では経済成長により人々の生活はどのように変化したのかを考察する。生徒に中国をより身近に感じながら考察してほしいと思い、次のような導入を考えた。

授業の冒頭部で筆者が撮影した **写真** を電子黒板に投影し、これはどこの写真か、どのようなシチュエーションなのか生徒に問いかける。席が近くの生徒3～4人での30秒意見交換開始。筆者の授業では頻繁に対話の時間をとっているため、本校生徒は対話に慣れており、すぐに話し出す。「筆者はこの近くでラーメンを食べ、そのあとにタピオカミルクティーを飲んだ。ともにレジ横のQRコードをスマホで読み取って支払いをした。次の場所へ移動しようこの場所へやってきて、この写真を撮影した」とも付け加え、生徒それぞれの手元にあ



**写真** レンタル自転車（福岡市）

## 2 経済成長による中国の生活の変化

学習課題 経済成長によって、中国人の生活はどのように変化したのだろうか。



↑1 住宅展示場で新築マンションの購入を検討する人々(中国、シャンハイ(上海)、2015年) 中国の都市部では、ローンを組んで住宅を購入する人が増えている。  
↑2 目下で買ったすしが売られるショッピングモールのすし売り場(中国、シェンチェン(深圳)、2019年)  
↑3 中国における家電製品の普及(読み解き) 都市と農村では、家電製品の普及にどのような違いがあるのだろうか。

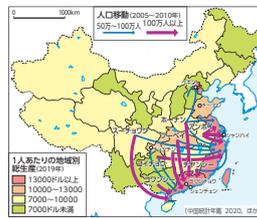
**深める 普及するスマホ決済**  
近年の中国では、スマートフォンを用いたモバイル決済サービスが普及してきている。屋台などの支払いでもスマートフォンでQRコードを読み込むことでモバイル決済が可能で、タクシーの配車サービスもアプリケーションの機能と合わせることで利用できる。中国では、これまで自動販売機があまり普及しなかったが、モバイル決済対応の自動販売機も増えている。一方で、スマートフォンを持っていないと、日常的にさまざまな場面では不便な社会になっていることも問題となっている。



↑4 QRコードを読み込んでモバイル決済で屋台の食べ物を買う人(中国、ベキン(北京)、2017年)

**経済成長と生活の変化** 中国の都市部の生活は、この20年余りで急速に変化した。その生活様式は先進国とほとんど変わらないものになってきた。自動車や家電製品、携帯電話などの普及率が高まり(図3)、日本や東南アジアなどの外国へ旅行に行く人も珍しくなくなった。中心市街地にはオフィスビルや高級ホテル、デパート、大規模なショッピングモールなどが集まり、商業やサービス業の発展もめざましい。また、市街地ではマンションが大量に建設され、新築の高層マンションをマイホームとして購入する人も増えている(写真5)。市内には、地下鉄などの鉄道が網の目のように張りめぐらされ、国際空港や高速道路、高速鉄道など、交通機関の整備が急速に進んでいる。

所得が上昇するにつれて、中国人の食生活も変化した。小麦や米などの主食の1人あたり摂取量が減る一方で、肉や卵、乳製品、魚介類、果物などの副食の需要が増えている。例えば、もともと中国人の多くは生魚を食べる習慣がなかったが、近年は日本食の刺身やすしを食べることが珍しくなくなってきた(写真7)。また、肉の消費量が増えたことで、食用油の原料となり、しばりかすが家畜の飼料になる大豆の輸入量が急増しており、飼料用のとうもろこしの国内生産量も伸びている。



↑5 中国の経済格差と人口移動(読み解き) 人口の移動は、1人あたりの地域別総人口とどのような関連があるのだろうか。



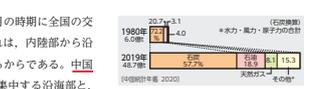
↑6 春節(旧正月)を祝う人々(中国、ベキン(北京)、2015年2月) 東アジアの中国や韓国では、現在も旧暦の正月に新年を祝うのが一般的で、この時期に多くの人々が故郷に帰省する。



↑7 購物ラッシュで混雑する駅(中国、コンチンチョウ(昆明)、2016年2月)

**経済格差と人口の移動** 中国では、春節とよばれる旧正月の時期に全国の交通が大混雑する(写真8・9)。それは、内陸部から沿海部へ出稼ぎにきている農民たちが、一斉に帰省するからである。中国の工業が沿海部を中心に発展したのに伴い、工場が集中する沿海部と、内陸部の農村との間に大きな経済格差が生じた(図6)。そのため、より多くの現金収入を得ようと、沿海部の都市にある工場などに、農村部から出稼しに行く人が増えた。働き盛りの世代が都市に出稼しに行ってしまったため、農村には高齢者と子どもたちだけが残されることも多い。

**深刻な環境問題** 経済が発展したことで、中国のエネルギー消費量は急激に増加した(図9)。大気汚染などのさまざまな環境問題を引き起こしている(写真10)。中国の主なエネルギー源は石炭であるが、中国産の石炭は多くの硫黄分を含み、燃焼させると硫黄酸化物が大量に排出されるため、各地で酸性雨の被害が発生している。微小な粒子状の大気汚染物質であるPM2.5による健康被害も深刻である。中国で発生した大気汚染物質は海を越えて日本にも届くため、国際的取組の整備や脱炭素の普及などが、問題の解決に向けて日中両国が協力している。



↑8 中国のエネルギー消費量の増加



↑9 大気汚染がひどい日にマスクをして通学する子どもたち(中国、チーチン(済南)、2015年)

**深い学び** 中国のエネルギー消費量が急速に増加したことによって引き起こされた問題について説明しよう。

134 Key Words 出稼ぎ 経済格差 大気汚染 酸性雨 PM2.5

135

図1 「高等学校 新地理総合」p.134~135

るPCの利用を促した。生徒はふだんからスマホでいわゆる「ググる」ことには長けている。1人1台のPCが貸与されているため、PCでググることは可能である。**写真**の情報として「Charichari」という文字で検索した生徒らは、福岡など日本の複数の都市で展開されているレンタル自転車であることなど、調べたさまざまな情報を発表してくれた。このことについては、後ほど関係してくるむねを伝え、次へ進む。

電子黒板にある1枚の写真を提示する。40代半ばの筆者にとっては、かつての中国の当たり前風景を写した写真である。生徒どうしでの30秒意見交換中ではどよめき交じりであった。生徒からは「ものすごい数の自転車が車道の端を走っている」や「みんな同じような服を着ている」といった意見が出された。生徒たちに見れば、2000年以降に生まれ、中国はそれなりに発展している国、なかには中国は先進国だと思っている生徒も少なくはない。1990年代の中国の朝の通勤風景の写真を使って本格的な経済成長前の中国に触れたところで、教科書へ入る。教科書では、**図1**のように単元名の下に**学習課題**と大きく示してあるため、本時の学習課題が生徒に伝わりやすい。

**図1**「3 中国における家電製品の普及」に付随している**読み解き**「都市と農村では、家電製品の普及にどのような違いがあるのだろうか」という問いを生徒へ投げ、60秒意見交換の後に、発表させる。前時に中国のGDPの推移について学習していることもあって、生徒

は経済成長と家電製品の普及の関連性も読み取ることができていた。さらに「都市と農村で共通点はないだろうか」という問いも投げかけると、「エアコンの普及率には大きな差があるが、携帯電話は都市も農村もともに高い普及率だ」という答えがあった。また、グラフから携帯電話の100戸あたりの保有台数は農村部が都市部を上回っていることに気づいた生徒がいた。すかさず全生徒へ「それはなぜだろうか」という問いを投げかける。すると生徒からは、「都市部は核家族が多い。一人っ子政策でなおさら家族の人数は少ない。農村部は祖父母も一緒に生活しているかもしれない。1戸あたりの人数は都市部のほうが農村部より少ないことが予想される」などが挙がった。資料の読み取りを通して、生徒の思考力の向上が見て取れる。

ここで**図1** **深める**「普及するスマホ決済」に触れた。中国ではもともと現金への信用度が低いこともあって、スマホ決済のみの店舗がかなり多いこと(2000年代に筆者が中国へ旅行した際、紙幣では一番高額の100元札で支払いをしたところ、レジ店員が紙幣の両面を透かしながら、確認をしていた様子が思い出される)、日本の小規模店や中国の多くの場合のように、店舗側のQRコードをスマホで読み取り、金額を入力して決済する方式では導入資金がかからず、導入のハードルはかなり低いことなどの要因も合わさり、沿海部だけでなく内陸部までモバイル決済が急速に拡大し、スマホの普及率向上につながっている。ここで、生徒や周囲のスマホ決

# 中国の農業

**地理力** 近年、中国は大豆を大量に輸入し、世界最大の輸入国となっている。なぜ中国の大豆の輸入量が急激に増えたのか、考えてみよう。①

## 1 中国の農業分布

①中国における農作物の作付面積割合

②中国の農業地域

③中国の降水量の分布



## 3 おもな農産物の生産地域



④中国の1人あたりの年間食料消費量の推移

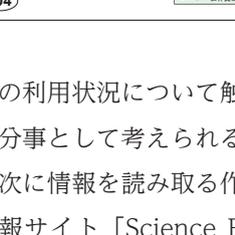
⑤日本向けの農産物生産



## 2 中国の農業制の移り変わり

⑥中国の農業制の変化

⑦中国における都市と農村の人あたりの年取の変化



## 4 食生活の変化と増え続ける農産物輸入

⑧中国の農業のまとめ

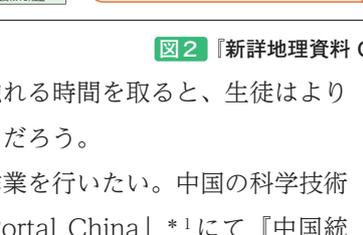


図2 『新詳地理資料 COMPLETE 2022』p.104~105

済の利用状況について触れる時間を取ると、生徒はより自分事として考えられるだろう。

次に情報を読み取る作業を行いたい。中国の科学技術情報サイト「Science Portal China」\*1にて『中国統計年鑑』のデータをExcelファイルでダウンロードすることができる。本時では消費支出に大きな変化が見られた2009、2014、2019年の消費支出のデータをグラフ化したものを生徒へ提示した(図3)。

このグラフについて60秒意見交換の後、発表させる。すると、「食費の割合が減っていること、2014年以降は住居の割合が増加していること」などが挙がった。

図1「1 住宅展示場で新築マンションの購入を検討する人々」のように豊かな都市部を中心に住宅購入者が多い。需要が増えれば価格は上昇する。近年では、価格が上昇し続けているからこそ、投資目的のマンション購入も増えてきている面もあるという。また、地図帳p.20「a 各地域の地域別総生産」、「c 都市と農村のエンゲル係数の変化」からは、経済成長によってエンゲル係数

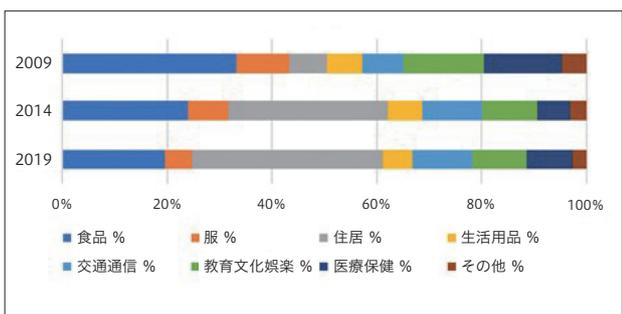


図3 ベキンの1人あたりの消費支出の変化(筆者作成)

(消費支出に占める食費の割合)が減少していることが分かるため、生徒の作業的な活動に利用するとよい。

教科書(図1)p.134 11~17行目のような経済成長に伴う食生活の変化については、資料集も活用した作業的な活動を行うことで生徒の理解を深めたい。まずは、資料集p.104~105(図2)の左上**地理力+**の問いをそのまま投げかける。各資料の説明文を読めばすぐに分かるものでも、グラフのどの部分からそれが読み取れるのかなどの意見交換作業をさせたい。グラフだけを電子黒板やPCに提示して、生徒に発表させるのもよいだろう。なお、大豆の輸入増やとうもろこしの生産増の背景などについて「地理探究」で学習する際に、『COMPLETE』は継続して活用できる。

教科書(図1)p.134 4~5行目に関して、都市部からの旅行者は来日2回目以降の人々も多くなり、団体旅行から個人旅行へ、買い物よりも体験型の旅行形態へと変化してきている。一方、近年は、いわゆる団体で「爆買い」をしていく中国の農村部からの訪日客も増加していた。その要因は次で明らかにする。

## 4 経済格差と人口の移動

図1「5 中国の経済格差と人口移動」の「人口の移動は、1人あたりの地域別総生産とどのような関連があるのだろうか」という資料の**読み解き**。その要因は、前時に学習したことも関係しており、図1 p.135 本文3~7行目に記載のとおりである。図1「6 中国における

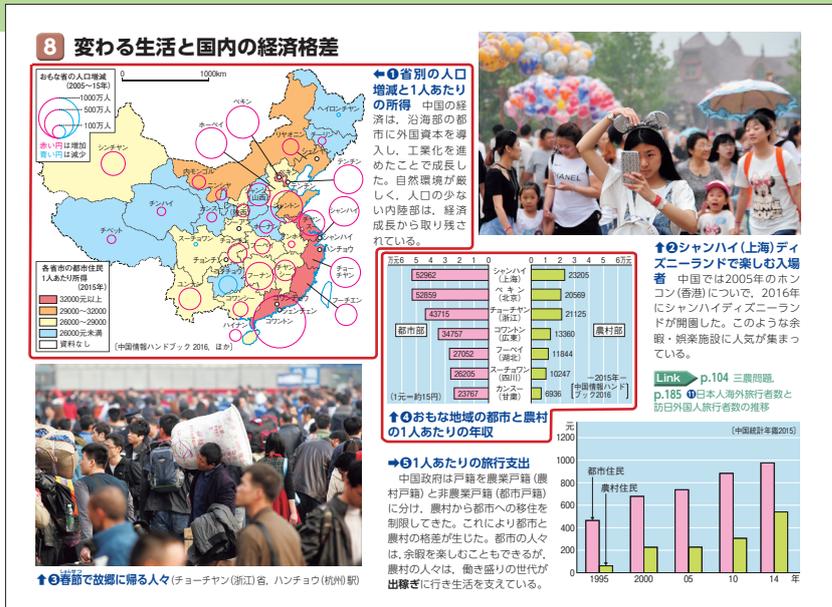


図4 『新詳地理資料 COMPLETE 2022』p.232

1人あたりの年収の推移」や 図4 「① 省別の人口増減と1人あたりの所得」、 「④ おもな地域の都市と農村の1人あたりの年収」からも格差を読み取ることができる。

ここで 図1 右下の 確認 「中国国内の人口の移動について、「出稼ぎ」という語句を用いて説明しよう」について意見交換を行い、発表の場を設けたい。安価な労働力を求めて、日本をはじめとした外国資本の多くが、中国の沿海部に投資を行ってきた。その安価な労働力の多くを担ってきたのが、内陸部からの出稼ぎ労働者である。これまで世界の工場として発展してきたのも、出稼ぎ労働者のおかげといっても過言ではない。前述した農村住民が旅行に行けるようになったのも出稼ぎ労働者の支えがあったことだ。ちなみに中国が世界の市場となった近年は、より安価な労働力を求めて、内陸部への投資も増加しており、その影響からか、沿海部の一部の工場では、図1 「8 帰省ラッシュで混雑する駅前」のように春節休暇で帰省した後、戻ってこない従業員も少なくないという。

## 5 深刻な環境問題

図1 右下の 深い学び 「中国のエネルギー消費量が急激に増加したことによって引き起こされた問題について説明しよう」については、個人でまとめ、意見交換、発表へと移る。図1 p.135の本文9～14行目や「10 大気汚染がひどい日にマスクをして通学する子どもたち」以外に、資料集 p.81 ( 図5 ) や GIS を活用して考察させたい。国立環境研究所の「環境展望台」\*2というサイト内ではさまざまな「環境 GIS」が紹介されている。PM2.5の濃度の分布予測を見ることができ



図5 『新詳地理資料 COMPLETE 2022』p.81

る「大気汚染予測システム VENUS」、日本での酸性雨の濃度の推移を見ることができる「酸性雨調査 Light版」などを活用して問題を発見していくとよいだろう。

深い学び は学校に応じて、簡単なレポート作成やプレゼンテーションの実施などによって、生徒の自己評価とともに「主体的に学習に取り組む態度」の評価にもつながるのではないかと考える。

最後に、中国が抱える環境問題に対して民間・個人レベルでできる課題解決案を考えさせたい。このとき「授業冒頭にヒントがあったよ」と付け加えた。

中国では、都市部を中心にレンタル自転車が2016年ごろから急速に普及した。かつてのなごりで、都市の歩道には駐輪スペースが残っていたのだ。しかし、乗り捨てられた自転車が路上にあふれるなどさまざまな問題が発生し、順調に進んでいる事業ではないものの、大気汚染の面を考慮すると進展してほしいものである。

## 6 おわりに

地理院地図・Google Earthなどの利活用や統計地図化の技能の習得によって、生徒の学びの幅は広がる。またさまざまな事象を自分事として主体的・対話的に学習できるような仕掛けは重要である。「地理って楽しい」「世界に興味を持った」「地図って生活に必要」など生徒の前向きな感覚を大切に、生徒と学びを作り上げていきたい。

- \*1 : <https://spc.jst.go.jp/>
- \*2 : <https://tenbou.nies.go.jp/>

〈参考文献〉  
・文部科学省(2019)：「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説地理歴史編」東洋館出版社